

みんなでステップアップ

吹奏楽楽器別教本 トランペット

CONTENTS

第1章

楽器と演奏の基本

① 組立とメンテナンス	2
② マウスピースの選択	2
③ 呼吸	2
④ 姿勢と持ち方	3
⑤ アンブッシュア	3

第2章

基礎トレーニング

① マウスピース	4
② ロングトーン（長い音）	4
③ リップスラー&リップトリル	5
④ タンギング&トリプルタンギング	7
⑤ ベンディング（中級以上に限る）	9
⑥ ペダルトーン（中級以上に限る）	9
⑦ スケールと分散和音	10

第3章

練習曲

① 初級（練習曲、二重奏、四重奏）	16
② 中級（練習曲、二重奏、四重奏）	20
③ 上級（練習曲、二重奏、四重奏）	26

第1章 楽器と演奏の基本

1 組立とメンテナンス

【写真1】楽器全体写真



ピストンにはバルブオイルを、スライドするトリガーにはスライドグリスをつけます。月に1回は水を通してお手入れをしましょう。

マウスピースは特に汚れがちなので、ブラシを使って洗浄してください。

【写真2】楽器分解、部品の写真



2 マウスピースの選択

通常、楽器を購入すると付属品としてついてくるマウスピースがあります。例えばBach (7C)

【写真3】やYAMAHA (11C4)などで、これがぴったりくる方もいらっしゃるでしょう。

しかしそのまま使用せず、ジャストフィットするものを探してみてください。スタンダードサイズは2C、3C、5Cあたりです。少し大きめの2C、3Cあたりから大きくしたり小さくして試してみましょう。必ず心地よく吹けるマウスピースが見つかるはずです。



【写真3】

3 呼吸

私たちは呼吸をしないと生きて行けません。ふだんは無意識に活動していますが、楽器を演奏する際は意識しなければなりません。事は簡単でたくさん多量に吸えばよいのです。

吸いながら腕を上げていけば胸式呼吸になります【写真4】。吸いながら腕を前から後ろへもっていければ腹式呼吸になります【写真5】。この2つのハイブリッド式が最もよいと思います。

【写真4】



【写真5】



4 姿勢と持ち方

よい姿勢で普通に立ちます。足は肩幅に開き顔は正面に向けて、そのまま楽器を構えればよいでしょう。

座奏は、立奏の姿勢のまま椅子に座ります。ただし背もたれには背中をつけないでください。

持ち方です。【写真6】は手に負担をかけてしまうので、【写真7】のように持ちましょう。グッと力を入れて握らなくてよいです。



(負担をかける持ち方)

【写真7】



5 アンブシュア

最も重要なのがこの「アンブシュア」です。トランペットに限らず吹奏楽器は必ず演奏する口の形があり、これによって上達度に差がついてしまうことがあります。次のようにセッティングしてください。

- a. 直径4ミリ以下のストローを歯で軽く噛み、ストローを軽く吹きます。【写真8】

【写真8】



- b. 吹く際は、コーラ瓶の飲み口に唇をあててフルートのように音を出す要領で息を入れます。【写真9】

【写真9】



- c. そのままの状態でマウスピースをストローに突っ込んで、a.のように息を入れます。【写真10】

【写真10】



- d. 息を出しながら、ごくゆっくりストローを抜いていくと、トランペットを吹けるアンブシュアの完成です。

【写真11】

ストローを抜いてもストローを吹く要領で息を出し続けると、自然と音が出てしまうでしょう。

【写真11】



第2章 基礎トレーニング

1 マウスピース

ストローと瓶を吹く感覚でアンブシュアをつかめたら、次はマウスピースでのトレーニングです。しっかりとした音が出ているのを確認してください。最初のうちはどんな音でも構いませんから、とにかく無理をしないで慣れましょう。まず【譜例1】の練習をおこなってください。

【譜例1】

1・2・3・4

※3、4拍目で息を吸います。吸うときは胸式腹式のハイブリッド式でおこなってください。

音が出てきたら【譜例2・3】の練習もおこないましょう。

【譜例2】

【譜例3】

※このトレーニングで特に注意してほしいのは、口笛を吹くように音を移動させることです。

(ド) — (ソ) — (ド) — (ソ) — (ド)
Ta タ — e エ — i イ — e エ — a ア と舌の位置が変わるので感じてください。

マウスピースでのトレーニングの仕上げとして【譜例4】の練習をおこないます。トロンボーンのスライディングのように、グリッサンドで音を途切れさせないように演奏しましょう。

【譜例4】

※シラブルを使いますが、これについてはリップスラー(P.5)を参照してください。

2 ロングトーン(長い音)

【譜例5】は、いろいろな効果が見込めるトレーニングです。ブレスコントロール(お腹の支え)をして、緊張しにくい身体をつくることができます。音色のチェック以外に、息がしっかりと吸っているか、アンブシュアがちゃんとセットアップできているか、などもチェックしながら演奏しましょう。

【譜例5】

36拍ロングトーンすることによって、音は揺れなくなり、アンブシアが決まり、胸式腹式のハイブリッドの呼吸ができます。さらに吹いている間に心拍数が減り、気持ちが落ち着き、**pp**の練習にもなります。こんな効果のあるトレーニングはやらないと損ですよ。

次の【譜例6】は、1オクターブ(23拍)を“1つの息”で網羅するイメージで、息を出すトレーニングです。

【譜例6】

(トリガー1番と3番を抜き、E♭を出してください)

③ リップスラー&リップトリル

息がたっぷり吸えるようになり唇がほぐれたら、リップスラーとリップトリルのトレーニングです。これはピストンを使わないのでおこなうスラーやトリルです。音が移り変わる瞬間にアパチュア（息の通り道として唇の中央にできる穴）が気持ちよく動いてくれますが、唇が柔らかくないとスムーズに音が変わりません。この柔軟性を身につけるためのトレーニングです。マウスピースのトレーニングと同様に、シラブルを使って練習しましょう。

【譜例7】では子音が含まれているので、その言葉をしゃべるように舌を持ち上げてください。

【譜例7】リップスラー

*高い音に行く際、“息を増やして”吐くようにマウスピースへ入れていくことが重要です。唇は、横から息がもれないようにするだけです。

[譜例8] のトレーニングは次のようにおこなってください。

- 声を出して、チャーエーイーチーアーーと音程をつけて歌いましょう。タンギングをするのでTがつきます。
- 次はマウスピースに唇をつけて、音も声も出さずに歌ってみます。
- 最後に音を出して練習しましょう。全ての運指で練習してください。

[譜例8] リップスラー

(チャ)(エ)(イ)(チ)(エ)(ア)
0

2

1

1・2

2・3

1・3

1・2・3

[譜例9] も [譜例8] と同様にチーエーイーエーイーエーと歌ってください。こちらも全ての運指で練習しましょう。また、口笛で吹いてみると舌の動きがよくわかると思います。リップスラーとリップトリル、いずれも口笛を吹いている舌の動きが、トランペットでも同じ動きをするはずです。

[譜例9] リップトリル

(チ)(エ)(イ)(エ)

(イ)(エ)(ア)

0

2

1

1・2

2・3

1・3

1・2・3

[譜例10] は速いリップスラーの練習です。すべての調でトレーニングしてください。

[譜例10] 速いリップスラー

$\text{♩} = 80 \sim 110$

0 12 123
2 23
13

4 タンギング & トリプルタンギング

タンギングとは、音の出だし（立ち上がり）や音を区切るときに舌を使う奏法です。舌はアーティキュレーションを自在に操る器官ですから、しっかりトレーニングしてください。

「Tu」という表記はどのように発音しますか。「ト」でしょうか？ 「トゥー」でしょうか？ 「ツ」でしょうか？ 日本人の場合、「チュー」と発音したほうが私はよいと思います。しかも母音の「u」は基本型として受け止め、音の高低にシラブルが関わってきますので、「Taチャー」「Teチー」「Tiチー」…と発音が変わっていきます。ハイトンでは「Pi」「Zi」となると思います。

[譜例11] はマイケル・デイヴィスによるタンギングのトレーニングです。

[譜例11]

$\text{♩} = 72 \sim 120$

[譜例12]はトリプルタンギングの練習です。トリプルタンギングは、「Tu Tu Ku」と発音します。「トゥ」「トゥ」「ク」ではなく「チュッ」「チュッ」「クッ」と小さい「ッ」が入るくらい、しっかり発音しましょう。さらに、「TTK」の「K」にアクセントをつけてトレーニングします。ゆっくりから始めて、「K」にアクセントがつけられないくらいまで速度を上げます。TとKのアタックに差が感じられなくなればよいでしょう。このトレーニングをおこなうことによって、ダブルタンギングは自然にできるようになると思います。ですから、トリプルタンギングからトレーニングしてください。

[譜例12]

$\text{♩} = 80 \sim 168$

T T K T T K T T T K T T K T T T K T T K T T T K T T K T T T K T T K T

$\text{♩} = 80 \sim 168$

> > > > > > > > > >

$\text{♩} = 80 \sim 168$

> > > > > > > > > > > >

*いろいろな調性でトレーニングしてください。

5 ベンディング(中級以上に限る)

少しレベルが上がってきたと感じたら、ベンディングのトレーニングをしましょう。ベンディングは「ねじまげる、とどめる」の意味で、ピストンを使わずに音程を変えます。これはアパチュア(唇の穴)の強化が目的です。振動しているアパチュアの所を、音程を上下させることによって強化します。

1回目は運指通りに音を出して、音程感覚を憶えてください。リピートしたときベンディングでトレーニングしましょう。

[譜例13]

The musical score consists of three staves of music. The first staff is in common time (C), the second in 3/4 time (G), and the third in common time (C). Each staff contains six measures of notes. Below each measure, there are dynamic markings: '0' under the first measure of each staff, '12' under the second, and '0' under the third. The notes are primarily eighth and sixteenth notes, with some quarter notes. Fingerings are indicated above the notes.

※音が下がるにつれて、息の量を増やしていくようにプレスをコントロールしてください。下顎が前後に動かせるので、舌と連動して感覚を磨きましょう。

6 ペダルトーン(中級以上に限る)

ベンディングが上手になったら、ロートーンより低い音域を出すトレーニングです。実際には曲の中にほとんど出てきませんが、あくまでトレーニングです。唇を柔らかくするためだと思ってやりましょう。

[譜例14]

The musical score consists of two staves of music. Both staves are in common time (C). Each staff contains four measures of notes. Below each measure, there are dynamic markings: '(1.3)' under the first measure of both staves, '(1.2.3)' under the second, '(1.2.3)(1.2.3)' under the third, and '(2.3)' under the fourth. The notes are primarily eighth and sixteenth notes. Fingerings are indicated above the notes.

☆1 トリガー1番と3番を抜き、E♭を出してください

☆2 0ででない時はこの運指で

注：ベンディングをおこなう要領で口内を変化させると、とてもやりやすいです。

7 スケールと分散和音

全調のスケールを練習しましょう。スケールはとても重要な練習ですから、必ず修得してください。

スケールが重要なのは、すべての音に対して音質の平均化を得ることができるからです。また、音楽は調性でできているので、調性ごとの運指がより短い時間でマスターできるためです。分散和音も同様です。

※調名は実音で表記しています。

a.マイケル・デイヴィスのスケール

$\text{♩} = 72$

変口長調 (B dur) 変ホ長調 (Es dur)

変イ長調 (As dur) 变ニ長調 (Des dur)

変ト長調 (Ges dur) 口長調 (H dur)

ホ長調 (E dur) イ長調 (A dur)

二長調 (D dur) ト長調 (G dur)

ハ長調 (C dur) ヘ長調 (F dur)

b.アーバンの短調のスケール

$\text{♩} = 60 \sim 120$

ト短調 (g moll)

ハ短調 (c moll)

へ短調 (f moll)

A musical score in 2/4 time, treble clef, F major (no sharps or flats). It consists of two staves of sixteenth-note patterns.

変口短調 (b moll)

A musical score in 2/4 time, treble clef, B-flat major (one flat). It consists of two staves of sixteenth-note patterns.

変木短調 (es moll)

A musical score in 2/4 time, treble clef, E-flat major (two flats). It consists of two staves of sixteenth-note patterns. A circled '1' is above the first staff and a circled '2' is below the second staff.

変イ短調 (as moll)

A musical score in 2/4 time, treble clef, A-flat major (two flats). It consists of two staves of sixteenth-note patterns.

変ニ短調 (des moll)

A musical score in 2/4 time, treble clef, D-flat major (three flats). It consists of two staves of sixteenth-note patterns.

嬰へ短調 (fis moll)

A musical score in 2/4 time, treble clef, F-sharp major (one sharp). It consists of two staves of sixteenth-note patterns.

口短調 (h moll)

A musical score in 2/4 time, treble clef, H major (one sharp). It consists of two staves of sixteenth-note patterns.

木短調 (e moll)

A musical score in 2/4 time, treble clef, E major (no sharps or flats). It consists of two staves of sixteenth-note patterns.

イ短調 (a moll)

A musical score in 2/4 time, treble clef, A-flat major (two flats). It consists of two staves of sixteenth-note patterns.

二短調 (d moll)

A musical score in 2/4 time, treble clef, D major (no sharps or flats). It consists of two staves of sixteenth-note patterns.

c. アーバンの半音階のスケール

$\text{♩} = 72 \sim 144$

d. アーバンの分散和音

$\text{♩} = 80 \sim 120$
変口長調 (B dur)

変ホ長調 (Es dur)

変イ長調 (As dur)



変二長調 (Des dur)



ト長調 (G dur)



ハ長調 (C dur)



ヘ長調 (F dur)



♩ = 80~120

木短調 (e moll)



イ短調 (a moll)



ニ短調 (d moll)



ト短調 (g moll)



ハ短調 (c moll)



ヘ短調 (f moll)



変口短調 (b moll)



練習メモ

第3章 練習曲

練習曲

ウォーミングアップ(ロングトーン、リップスラー、タンギング、ベンディング、ペダルトーン、スケールなど)は基礎的なトレーニングです。それに対しエチュード(練習曲)は音楽的な部分のトレーニングになります。いろいろなリズムや音程、アーティキュレーション、耐久性(自分の体力)などを、楽しんで、**音楽**の練習をするのが目的です。曲想をイメージし、楽譜に書かれているキャラクターが表現できるよう、テンポを遅くしたり、録音や周りの人間に聴いてもらったりして、練習の方法を工夫してください。曲はだんだん難しくなっていますが、くじけないで練習を楽しんでください。

二重奏

○ 目的

自律した拍勘定を習慣にし、楽譜を守ることを覚えましょう。他パートの音を心で歌いながら、自分のパートを演奏できるように訓練してください。

○ 教材の使い方

必ずしも同族楽器で演奏する必要はありません。任意の友人と演奏したり、時には人を入れ替えながらアンサンブルを楽しむことは、大きな成長につながります。さまざまな楽器の組み合わせで演奏すべきですが、下段パートの音が上段パートの音よりも高くならないような組み合わせにします。

後半の練習曲は、一部の楽器にとって難易度が高い内容です。無理をせず適切な難易度を選択し、確実な演奏を心掛けましょう。

○ 何ができるべきか／どうなるといけないのか

練習曲に対する音楽的イメージをふたりで共有し、互いに自律して楽しく演奏できればよいでしょう。

相手に釣られたり相手に拍勘定を依存したり、どちらかが待つ・端折るなどの無理をして成立する、という状態になってはいけません。

○ 練習方法の工夫

自律して正しく演奏できている者同士であれば、初めての相手とでも最初から合うはずです。次々と交代しながら、時には他校の生徒と合わせてみたりすることは非常に効果的な練習です。自らの演奏を録音して客観的に聴いてみると、とてもよい勉強になります。

四重奏

○ 目的

二重奏で学んだことに加え、より複雑化した動きへの対応や、パート毎のバランスを取ること、音程を正しく取ることを覚えましょう。

○ 教材の使い方

必ずしも同族楽器で演奏する必要はありません。人を入れ替えながらの演奏が非常に有効なのは、二重奏と同じです。ただし最下段の音が、他の3段の音よりも高くなってしまうのは避けなければいけません。上3段の音の上下関係は入れ替わっても構いませんが、主旋律が隠れてしまわないように演奏上の工夫をしてください。

なお、この上下関係の原則は調性音楽すべてに言えることです。

○ 何ができるべきか／どうなるといけないのか

二重奏で学んだことの他、聴き手が常に旋律を耳で追えるようなバランスや、音程が正しく取れていることに注意するとよいでしょう。

○ 練習方法の工夫

次々とパートを交代しながら演奏して、他パートの立場を常に考える習慣をつけてください。

メトロノームを使った練習は非常に危険です。使用は限られた場合にとどめるべきでしょう。

1 初級

a. アーバンの練習曲から

No.10より

$\text{♩} = 60 \sim 80$

0 2 1 1 1 1 2

No.10より

$\text{♩} = 60 \sim 80$

0 2 1 1/2 0 1 1/2 1

No.11

$\text{♩} = 60 \sim 108$

0 2 1 1/2 0 1 1/2 1

No.12

$\text{♩} = 60 \sim 108$

0 2 1 1/2 0 1 1/2 1

No.48

$\text{♩} = 64 \sim 90$

simile

0 2 1 1/2 0 1 1/2 1

b.二重奏

$\text{J}=72\sim69$

mf

5 (Last time no repeat)

9 *f* simile

13

1. 2. *rallent.*

D.C.

Andantino $\text{J}=76$

p

5

9

13

mf

18

22 *rall.*

a tempo

26

30 *rall.*

c.四重奏

Spring Song (Albert Ellmenreich/Arr. by Earl D.Irons)

Allegretto (♩=96)

The musical score consists of five staves, each representing a different instrument in a quartet. The instruments are: 1. Bassoon (bottom staff), 2. Clarinet (second staff from bottom), 3. Flute (third staff from bottom), and 4. Oboe (top staff).

Section A: Measures 10-19. The bassoon has sustained notes. The clarinet and flute play eighth-note patterns. The oboe plays sixteenth-note patterns. Dynamics include *p*, *cresc.*, *f*, *p cresc.*, *p*, *p*, *cresc.*, *f*, *p cresc.*, *p*, *p*, *cresc.*, *f*, *p cresc.*, *p*, *p*. Articulations include slurs and grace notes. Measure 19 ends with a fermata over the bassoon and a dynamic of *p*.

Section B: Measures 20-29. The bassoon has sustained notes. The clarinet and flute play eighth-note patterns. The oboe plays sixteenth-note patterns. Dynamics include *rit.*, *a tempo*, *p*, *p*, *p*, *p*, *p*, *p*, *p*. Articulations include slurs and grace notes. Measure 29 ends with a fermata over the bassoon and a dynamic of *p*.

Section C: Measures 30-39. The bassoon has sustained notes. The clarinet and flute play eighth-note patterns. The oboe plays sixteenth-note patterns. Dynamics include *p*, *p*, *mf*, *mf*, *simile*, *simile*. Articulations include slurs and grace notes. Measure 39 ends with a fermata over the bassoon and a dynamic of *p*.

Section D: Measures 40-49. The bassoon has sustained notes. The clarinet and flute play eighth-note patterns. The oboe plays sixteenth-note patterns. Dynamics include *p*, *p*, *mf*, *mf*, *p*, *p*, *p*, *p*. Articulations include slurs and grace notes. Measure 49 ends with a fermata over the bassoon and a dynamic of *p*.

Section E: Measures 50-59. The bassoon has sustained notes. The clarinet and flute play eighth-note patterns. The oboe plays sixteenth-note patterns. Dynamics include *mf*, *mf*, *p*, *p*. Articulations include slurs and grace notes. Measure 59 ends with a fermata over the bassoon and a dynamic of *p*.

40

F

50

G

59

H
rit.
a tempo

69

rit.

2 中級

a. アーバンの練習曲から

No.19

Moderato $\text{♩} = 68 \sim 116$

The sheet music consists of four staves of musical notation. The first staff starts with a sixteenth-note pattern labeled 'tu' repeated five times, followed by a eighth-note 'tu'. The second staff begins with a eighth-note followed by a sixteenth-note pattern. The third staff starts with a eighth-note followed by a sixteenth-note pattern. The fourth staff starts with a eighth-note followed by a sixteenth-note pattern.

No.31

Allegretto $\text{♩} = 52 \sim 96$

The sheet music consists of seven staves of musical notation. The first staff starts with a eighth-note followed by a sixteenth-note pattern. The second staff starts with a eighth-note followed by a sixteenth-note pattern. The third staff starts with a eighth-note followed by a sixteenth-note pattern. The fourth staff starts with a eighth-note followed by a sixteenth-note pattern. The fifth staff starts with a eighth-note followed by a sixteenth-note pattern. The sixth staff starts with a eighth-note followed by a sixteenth-note pattern. The seventh staff starts with a eighth-note followed by a sixteenth-note pattern.

b.マイケル・ディヴィスの練習曲から

Arpeggiated Flexibility

$\text{♩} = 64$

This musical score consists of four staves of music for a single melodic line. The tempo is indicated as $\text{♩} = 64$. The first staff starts with a treble clef and a key signature of one sharp. It features a series of eighth-note arpeggiations. The second staff begins with a key signature of two sharps. The third staff begins with a key signature of two flats. The fourth staff begins with a key signature of three sharps. Measure numbers 0, 2, 2, 2, 3, 1, 2, and 1, 3 are marked above the staves to indicate specific notes or groups of notes for performance.

Chromatic 4ths

$\text{♩} = 92$

This musical score consists of three staves of music for a single melodic line. The tempo is indicated as $\text{♩} = 92$. The first staff starts with a treble clef and a key signature of one sharp. The second staff starts with a key signature of one flat. The third staff starts with a key signature of one sharp. The music features continuous eighth-note patterns that transition through various chromatic intervals, primarily fourths. The word "simile" is written above the first staff to indicate a performance technique.

5th Connection

$\text{♩} = 92$

This musical score consists of three staves of music for a single melodic line. The tempo is indicated as $\text{♩} = 92$. The first staff starts with a treble clef and a key signature of one sharp. The second staff starts with a key signature of one flat. The third staff starts with a key signature of one sharp. The music features continuous eighth-note patterns that connect through various intervals, primarily fifths, across the different staves.

c. ラゴルスの「トランペットのための小練習曲」から

QUARTES "A LA CARTE"

Allegro $\text{♩} = 120$

2/4 time, treble clef, dynamic *f*. The music consists of two staves. The first staff starts with a dotted half note followed by eighth notes. The second staff begins with a dotted half note followed by eighth notes.

Lento $\text{♩} = 52$

2/4 time, treble clef, dynamic *mf dolce*. The music consists of two staves. The first staff features eighth-note patterns with grace notes. The second staff continues the eighth-note patterns with grace notes.

2/4 time, treble clef, dynamic *mf*. The music continues with eighth-note patterns and grace notes.

rall. e dim.

Tempo I

2/4 time, treble clef, dynamic *f*. The music consists of two staves. The first staff starts with a dotted half note followed by eighth notes. The second staff begins with a dotted half note followed by eighth notes.

Allegretto $\text{♩} = 96$

2/4 time, treble clef, dynamic *mf leggiero*. The music consists of two staves. The first staff features eighth-note patterns with grace notes. The second staff continues the eighth-note patterns with grace notes.

2/4 time, treble clef. The music continues with eighth-note patterns and grace notes.

Tempo I

2/4 time, treble clef, dynamic *f*. The music consists of two staves. The first staff starts with a dotted half note followed by eighth notes. The second staff begins with a dotted half note followed by eighth notes.

rall.

2/4 time, treble clef. The music continues with eighth-note patterns and grace notes.

d.二重奏

Moderato ($\text{♩}=104$)

1
f
5
mf

Measures 1-5 show two staves of piano music. The top staff uses a treble clef and the bottom staff uses a bass clef. Measure 1 starts with a half note followed by eighth-note pairs. Measure 2 has eighth-note pairs. Measure 3 starts with a half note, followed by eighth-note pairs. Measure 4 starts with a half note, followed by eighth-note pairs. Measure 5 starts with a half note, followed by eighth-note pairs.

6
9
Measures 6-9 show two staves of piano music. The top staff uses a treble clef and the bottom staff uses a bass clef. Measures 6-9 consist primarily of eighth-note pairs.

10
13
f
17
rit.
Measures 10-17 show two staves of piano music. The top staff uses a treble clef and the bottom staff uses a bass clef. Measures 10-17 feature eighth-note pairs and some sixteenth-note patterns. Measure 17 includes a dynamic marking 'f' and a tempo marking 'rit.'

Allegro
1
p
5
9
Measures 1-9 show two staves of piano music. The top staff uses a treble clef and the bottom staff uses a bass clef. Measures 1-9 feature eighth-note pairs and some sixteenth-note patterns. Measure 1 includes a dynamic marking 'p'.

13
17
21
Measures 13-21 show two staves of piano music. The top staff uses a treble clef and the bottom staff uses a bass clef. Measures 13-21 feature eighth-note pairs and some sixteenth-note patterns.

25
29
f
Measures 25-29 show two staves of piano music. The top staff uses a treble clef and the bottom staff uses a bass clef. Measures 25-29 feature eighth-note pairs and some sixteenth-note patterns. Measure 29 includes a dynamic marking 'f'.

33
37
41
f
p
Measures 33-41 show two staves of piano music. The top staff uses a treble clef and the bottom staff uses a bass clef. Measures 33-41 feature eighth-note pairs and some sixteenth-note patterns. Measures 37-41 include dynamic markings 'f' and 'p'.

e.四重奏

Trumpet Serenade (Milton Dieterich)

Allegro

The musical score consists of five staves of music for trumpet quartet. Staff A starts with dynamic *mf* and includes dynamics *ff*, *mf*, and *mp*. Staff B starts with dynamic *mf*. Staff C starts with dynamic *f* and includes dynamics *ff*, *mf*, and *ff*. Staff D starts with dynamic *f* and includes dynamics *ff*, *mf*, *ff*, *mf*, and *ff*. Staff E starts with dynamic *mp* and includes dynamics *mp*, *mf*, and *mp*. Measures are numbered 1, 9, 18, and 26.

A

B

C

D *a tempo*

E *a tempo*

34

F

G

43

H

51

I

59

J

poco rit.

K

a tempo

3 上級

a.マイケル・デイヴィスの練習曲から

Broken Triads

$\text{♩} = 105$

The sheet music consists of four staves of musical notation. The first three staves are in common time (indicated by a '4') and the fourth staff is in 6/8 time (indicated by a '6'). The key signature changes throughout the piece. The first staff starts with a key signature of one sharp (F#). The second staff starts with a key signature of one flat (B-flat). The third staff starts with a key signature of one sharp (F#). The fourth staff starts with a key signature of one flat (B-flat). The music features broken chords (triads) played in a specific sequence. Below each staff, there are numbered markings (1, 2, 3, 0) indicating fingerings or stroke patterns. The first staff has markings 1, 2, 3. The second staff has markings 2, 1. The third staff has markings 1, 2. The fourth staff has marking 0.

Chromatic Flexibility

$\text{♩} = 64$

The sheet music consists of six staves of musical notation. The time signature is 6/8 throughout. The key signature changes frequently, indicated by various sharps and flats. The music is composed of eighth-note patterns. Below each staff, there are numbered markings (1, 2, 3) indicating fingerings or stroke patterns. The first staff has markings 1_2_3, 1_3, 1_2_3, 1_3. The second staff has markings 1_3, 2_3, 1_3, 2_3. The third staff has markings 2_3, 1_2, 3, 2_3, 3, 1_2. The fourth staff has markings 1_2, 1, 3, 1_2, 3, 1. The fifth staff has markings 1, 2, 3, 2, 1_3, 2_3, 0. The sixth staff has markings 2, 0, 3, 2, 3, 0.

b. アーバン 特別な練習曲から

No.1

Allegro Moderato

The musical score for No. 1 consists of 12 staves of musical notation for a single instrument. The key signature changes frequently, including C major, G major, F major, E major, D major, A major, B major, and G major. The time signature also varies. The music features various articulations like trills and grace notes, and dynamic markings such as 'Fine' and 'D.C.' (Da Capo). The notation is dense with sixteenth and thirty-second note patterns.

c. シャルリエの練習曲から

No.2

Allegretto ($\text{♩} = 84$)

mf

V

f

cresc.

p

3

poco rit.

Meno mosso

dolce

(語るように)
sous forme de récit

poco rit. espressivo

cresc.

p

rit.

du Il mouvt retenir peu a peu (ritenuto poco a poco)

ad lib.

sostenuto

p

mf

Trillez avec 1^{er} et 2^{er} 3^{er}

28

d.二重奏

The sheet music consists of five staves of musical notation for piano duet, arranged in two systems. The first system starts at measure 1 and ends at measure 27. The second system starts at measure 32 and ends at measure 38. The notation includes various musical elements such as eighth and sixteenth-note patterns, dynamic markings like *mf* (mezzo-forte) and *f* (forte), and performance instructions like *attaca*. The music is primarily in common time (indicated by '3/4' in the first staff). Measures 1 through 5 show a melodic line in the upper staff with sixteenth-note patterns and eighth-note chords in the lower staff. Measure 6 begins a section labeled 'A' with a forte dynamic. Measures 7 through 10 continue the melodic line with eighth-note patterns. Measures 11 through 15 are labeled 'B'. Measures 16 through 20 are labeled 'C'. Measures 21 through 25 are labeled 'D'. Measures 26 through 27 are labeled 'E'. Measure 32 marks the beginning of the second system. Measures 32 through 36 continue the melodic line with eighth-note patterns. Measures 37 and 38 conclude the piece.

e.四重奏

Gavotte (Padre G.B.Martini / Arr. by Earl D.Irons)

Allegro moderato ($\text{J}=76$)

Musical score for the first system of the quartet. The score consists of four staves, each representing a different instrument. The key signature is common time (no sharps or flats). The tempo is Allegro moderato ($\text{J}=76$). Dynamics include mf , sf , and \geq . Measures 1 through 6 are shown.

Musical score for section A of the quartet. The score consists of four staves. The key signature changes to one sharp. Measures 7 through 13 are shown, with dynamics including ff , p , sf , and f .

Musical score for section B of the quartet. The score consists of four staves. The key signature changes to one sharp. Measures 14 through 20 are shown, with dynamics including f and \geq .

Musical score for section C of the quartet. The score consists of four staves. The key signature changes to one sharp. Measures 21 through 27 are shown, with dynamics including ff , f , and \geq .

27

pp pp pp pp pp pp pp pp

mf mf mf mf mf mf mf

p p p p p p p

33 D

sf sf sf sf sf sf sf

tr tr

E

40

sf sf sf sf sf sf

pp pp pp pp pp pp

f f f f f f

ff ff ff ff ff ff

F

47

p p p p p p

> < > < > < > < > <

54

G

61

H

68

I

75

J

The Night (F.P.Schubert / Arr. by H.Voxman)

作曲家プロフィール

アーバン (ジョゼフ・ジャン=バティスト・ロラン・アルバン)

Joseph Jean-Baptiste Laurent Arban (1825-89) (仏)

19世紀ピストン式コルネット黎明期フランスの名手。指揮者、教育者としても活躍。
彼の金管教本は100年以上経った今も代表的な教本として使われている。

マイケル・デイヴィス

Michael Davis (1961-) (米)

ニューヨークを中心に活躍する米国ジャズ・ポピュラー界では非常に高名なトロンボーン奏者。
金管奏者にとって今や定番となったCD付きウォームアップ教本の著者。
<http://www.hip-bonemusic.com/>

ルイ・サン=ジャコメ (ヤコメ)

Louis A. Saint-Jacome (1830-98) (仏)

アーバン同時代に生きライバル関係にあったようだが、アーバンと双璧をなす、より系統だった教本の著者。

◆著者プロフィール――

栄本浩規 (とちもと ひろき)

岐阜県高山市出身。名古屋芸術大学音楽学部弦管打科卒業。トランペットを和久田照彦、津堅直弘の両氏に師事。1985年東京フィルハーモニー交響楽団に入団。1991年NHK交響楽団に移籍。1996年国際ロータリークラブのスカラシップを得てシュトゥットガルト音楽演劇大学に留学し、H.ロイビン、H.ヴォルフの両氏に師事。1989年と2005年ITG(国際トランペット協会)にゲスト・アーティストとして参加。2012年4月、東京藝術大学音楽学部准教授に就任。東京音楽大学、名古屋芸術大学および聖徳大学音楽学部、各非常勤講師。N-crafts、東京プラスシンフォニー各メンバー。日本トランペット協会常任理事。

[引用] Michael Davis : 基本練習 より
Joseph Jean-Baptiste Laurent Arban : トランペット教本 より
Louis A. Saint-Jacome : 練習曲より
Théo Charlier : 36の練習曲 より
A.M. Lagorce : Petites études concertantes pour Trompette より
Albert Ellmenreich／Arr. by Earl D.Irons : Spring Song
Milton Dieterich : Trumpet Serenade
Padre G.B.Martini／Arr. by Earl D.Irons : Gavotte

映像

演奏 栄本浩規、松山 萌、小林 鴻、畠山真菜美
指導 栄本浩規
撮影・編集 鈴木勝貴、齋藤 峻

協力 野中貿易株式会社

みんなでステップアップ～吹奏楽楽器別教本 トランペット

編 著 栄本浩規
制作統括 横田搖子
助 成 子どもゆめ基金
制 作 一般社団法人日本クラリネット協会
発 行 一般社団法人日本クラリネット協会
〒164-0013 東京都中野区弥生町4丁目6-13 ヤックビル3F
発 行 2016年1月31日
©2016 Japan Clarinet Association
